

政策評価トピックス 第 58 号(2005 年 8 月 15 日)

・農林水産省：16 年度政策評価結果

農林水産省は、平成 16 年度政策の実績評価結果を公表しました。農林水産省の評価体系は、57 政策分野（農政 40、林政 8、水産行政 9）について 131 の目標を設けていますが、このうち、統計データが取りまとめられていないもの（5）、達成度合いのランク付けを行わないこととしたもの（9）を除く 117 の目標について達成ランクを明らかにしています。達成ランク A（達成度 90%以上）が 74 目標、B（達成度 50%以上 90%未満）が 24 目標、C（達成度 50%未満）が 19 目標となっています。

定量的目標を補完するものとして、個々の政策手段（事業）を対象に、必要性、有効性及び効率性の観点から評価を行う政策手段別評価として、45 の事業について評価を行った結果、「継続して実施することに問題なし」が 2 事業、「なんらかの改善が必要」が 36 事業、「廃止（一部廃止を含む）を前提に検討する必要」が 7 事業となっています。

なお、新たな「食料・農業・農村基本計画」が策定されたことから、来年度から実施する政策評価については、改善を行っていくとしています。

<http://www.maff.go.jp/soshiki/kambou/kikaku/hyoka/16/16seikekka.html>

・岩手県：16 年度政策評価結果

岩手県では、県の総合計画に掲げる 17 の施策、78 の分野を対象に、主要な指標 228 の進捗状況を基本として、県民意識調査や県民生活指標の統計資料等を踏まえて政策評価を行っています。

評価の結果、到達度が「高」（1 年以上進んでいる）が 70 指標、「中」が 62 指標、「低」（1 年以上遅れている）が 90 指標となっています。到達度が「高」の指標は、15 年度に比べ 9 指標（構成比で 2 ポイント）増加しています。

到達度が「低」となった要因として、意識啓発等による県民への浸透が十分でなかったこと（17 指標）、長引く景気の低迷（19 指標）、ライフスタイルやニーズの変化（8 指標）などをあげています。

<http://www.pref.iwate.jp/~hp0212/seisaku/>

・山口県：アクティブ 21 の推進

山口県では、県が持っている人材、施設、情報、ノウハウを活用し、県民、団体と連携・協働することによって、新たな予算措置をしなくても、効果的な施策を生み出す取組みとして本年度から「アクティブ 21」を実施しています。農林水産関係をみると、情報提供では、「動物由来感染症相談窓口の設置」、「移動農業試験場の開催」、「移動水産研究センターの開催」、規制緩和では、「農家民宿の開業の促進」、「下関地区水産業活性化特区の推進」、連携・協働では、「山口大学農学部と農林部 3 試験研究機関の連携」、「ルーラルフェスタ月間の実施」、「エコやまぐち農産物認証制度」、「郵便局との土砂災害に関する協定の締結」があげられています。

<http://www.pref.yamaguchi.jp/gyosei/seisaku/active21/active21.htm>

・熊本県：17 年度政策評価（案）

熊本県では、このほど 17 年度の政策評価（案）を取りまとめ、7 月 15 日から 8 月 15 日まで県民から意見・提案を求めました。

例えば、重要施策「食の安全、安心確保対策の充実」の評価をみると、JAS 品質表示指導事業（生鮮食

品の全商品に原産地が表示されている売場の割合)は S (十分な成果を上げた事業), 食の安全安心確保対策事業 (販売されている食品に不安を感じる県民の割合)は A (かなりの成果をあげた事業), 生産流通履歴情報システム導入対策事業 (トレーサビリティシステム導入品目割合)は B (一定の成果をあげた事業) などとなっています。

http://www.pref.kumamoto.jp/invited/opinion/seisaku_hyoka2/h17/mokuji.html